

6年生保護者 様

令和3年11月30日

流山市立新川小学校  
校長 長谷川 伸一

## 令和3年度全国学力・学習状況調査結果の概要

初冬の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。  
1学期に実施しました全国学力・学習状況調査結果の個票を配布しますので、ご確認ください。尚、本校児童の結果の概要は下記の通りです。

### 記

#### 1 結果及び考察

- 国語の理解度は全国平均よりやや低く、算数の理解度は全国平均と比べてやや高いという結果でした。
- 国語では「読むこと」や「選択式」の問題については全国平均に近い力を持っています。その反面、「話すこと・聞くこと」と「短答式」の正答率が低くなっています。ポイントを絞って話したり聞いたり文章を書いたりする機会の減少がその一因にあるのではないかと考えます。
- 算数では「データの活用」の領域で、グラフからデータを比較して何をどのように比較し考察するのかについての理解が深いことが分かりました。プログラミング教育や算数に限らず日常的にデータを比較して考察する習慣ができているためと考えられます。一方、図形領域は苦手である事が分かりました。これは面積を求めることはできるが、図形の構成要素を探し出してそれを組み合わせて考察したり、筋道を立てて説明したりすることが苦手な事が考えられます。図形をどう捉えて分析し、表現していくのが今後の課題となっています。

#### 2 生活意識

生活意識に関しては、「ものごとを最後までやり遂げて嬉しかったことがありますか」や「将来の夢や目標をもっていますか」という設問に肯定的に回答した児童がほとんどで、そこから自己有用感の高さや規範意識を自分達で整えていこうという姿勢が見られます。

学習意欲は、授業での導入の工夫や学習ボランティアの活用、タブレットを用いた授業を入れたことで意欲が向上しました。

また、読書に関しては1週間のうち多く読む児童とそうでない児童が半々となっており、読書量の差が出ていることも分かりました。

生活習慣や学習習慣を自分でコントロールしていく部分が若干低いことがわかりました。これは、準備されたものをこなすのみで、児童自身で考えて思考を深めるような学習習慣が習慣づいていないためと考えられます。

#### 3 今後に向けて

上記の結果から、国語では、資料のどの部分に注目して、どのような説明をすれば分かりやすく伝えることができるのかを改善していきます。また、調べたことや体験したことなどの発表する機会を多く設けるとともに、その際に「分からない相手にどの部分をどのような手法を用いて」説明するのかに重点を当てていきます。

算数では図形のイメージを持たせるとともに図形の構成要素を出してそれを発達段階に応じてまとめるようにします。さらに、授業のまとめの部分を児童に考えさせたり発表させたりすることで表現力の向上を図ります。

基礎学力の向上と学習の習慣化を行い、中学校に繋げ、ご家庭と連携してお子様一人ひとりに更なる学力の定着を図っていきたいと考えます。よろしく願いいたします。